



女性と正月

お正月といえはお節料理。生活スタイルが変わったとはいえ、お正月には多くのご家庭でお節料理を食べるのではないでしょう。お節料理は、昔は大みそから元旦の年越しに食べられていきましたが、現在では元旦から三が日、あるいは7日までの松の内に食べる保存食の意味が強くなりました。また、お節料理は、女性を家事から解放する意味もあります。家事や育児などで一年中忙しい女性を、お正月ぐらいは家事を休ませようと、少なくとも三が日の間は、女性が台所に入らない風習のある地方もあります。

最近スーパーやデパートで洋風や中華風などいろいろなお節料理を買うことができます。働く女性が増えている中、手作りだけでなくお正月のけじめとしてお節料理を味わい、ゆつくりと年末年始を過ごすのも良いかもしれません。

ところで皆さんは「女正月」という言葉をご存じでしょうか。女正月とは1月15日前後のこと

で、女性はお正月も親戚や年賀のあいさつ客の接待で休めないため、年賀の行事が一段落した小正月の時期に一息ついたことからそう呼ばれます。

東濃地方ではなじみがない風習だと思えますが、女正月の時期に男性が家事の一切を行い、女性を休ませる地方もあります。福島県会津地方では、16日を仏の正月または女の正月と呼んで、女性が一日中仕事を休み、遊ぶ日とされています。また、秋田県鹿角郡では、16日以降の半月間を女子正月と呼び、女性の休日に充てています。

こうした風習はもちろんですが、できれば普段から男性が女性を、女性が男性を、お互いに思いやる気持ちを持ちたいものです。

年末年始は大掃除や帰省など普段よりも慌ただしいという方もあるかと思いますが、初詣に行ったり、子どもと一緒に遊んだり、家族と一緒に過ごすことができる機会です。ぜひ一家庭の時間を過ごしてください。



実は最先端医療圏です

土岐に赴任して三度目のお正月を迎えました。

赴任した時、脳神経外科専門医は3人でした。おのおの血管内治療専門医、神経内視鏡技術認定医などを取得していたので、それぞれの専門領域を生かした診療をすることにしました。

また、脳卒中急性期の患者さんを受け入れるべく365日脳外科医の待機態勢を組みました。そして、医師会や近隣の中核病院に脳卒中の可能性が高いと判断されたら連絡をいただこうようお願いをするなど、東濃地域の皆さんが近くの医療機関で診察を受け、頭蓋内疾患を疑われた場合は当院を受診していただく流れを作ってきました。最近市外からも紹介受診、救急搬送される方が増えてきました。

特に脳血管障害で受診される方が多く、血管内手術（カテーテルによる治療）や外科手術を受けられる方が増えてきています。数年前までは寝たきりになっていた病気が、笑顔で歩いて帰ることができるようになっていきます。

一昨年、最新式の脳血管撮影装置が導入され、その後も常に

脳神経外科部長

野田伸司 医師

最先端の治療用カテーテルを導入し、治療効果を上げています。

また昨年、新しい手術用顕微鏡を購入しました。脳虚血（脳に血液が足りない状態）で脳梗塞になりそうな状態）に対し血液を補うため血管をつなぐ手術を増えてきていました。大きく、明るく見えることで、より微細な血管の処置ができるようになります。手術中に血液がうまく流れているかを確認する機能がついているため、より安全確実に手術ができるようになりました。

顕微鏡が2台に増えたことで急な患者さんにも対応できるようになり、昨年も実際に急場をしのぐことができました。もちろん脳外科医3人で全て対応できるわけではなく、放射線科、検査科、救急外来、手術室、病棟や他の科の医師など多くのスタッフの協力のおかげです。

職員に当院で受診したいと思ってももらえなければ、市民の方に満足していただける医療は提供できないでしょう。研修医やスタッフが一緒に働きたいと思える診療を提供していければ土岐市の医療は安定し、発展するのではないかと考えています。